

(89) 群馬県下仁田町の中丸鉾山跡一追記

10年ぶりに岩友達と本鉾山を再訪した。内容は既報に付加するようなものなので、既報をまず読むことを勧める。なを、岩友のお陰で輝安鉾の原石を採集することができた。

2020年10月

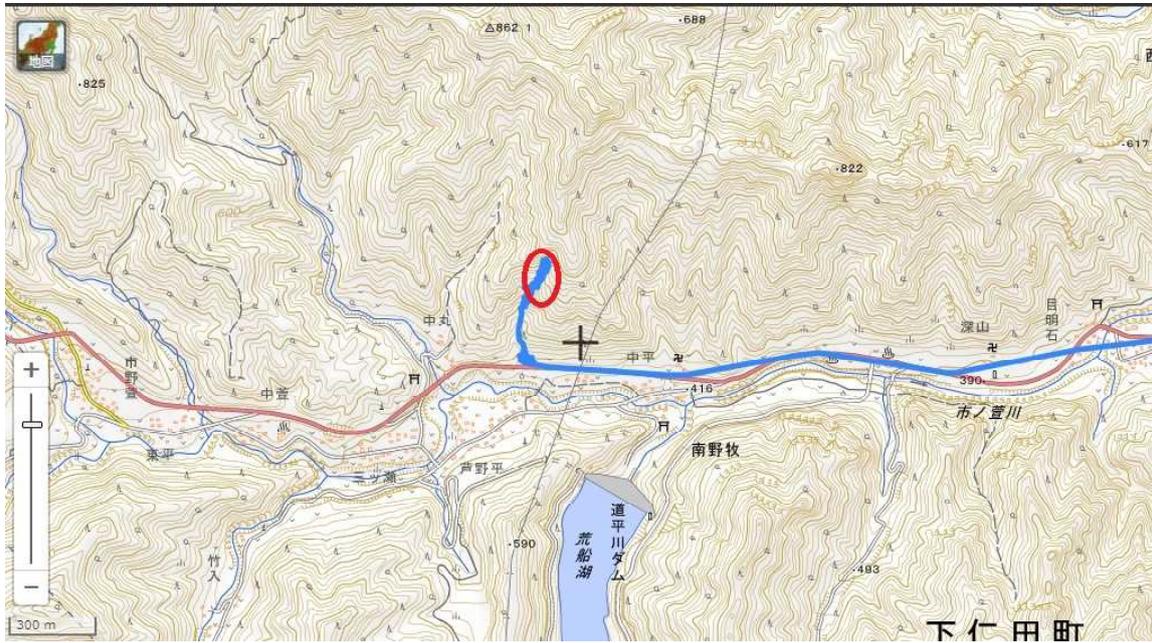


図1 下仁田ICを降りて、254号を西行し、下仁田の西側、人造湖の荒船湖に対面した山中に本鉾山がある。赤輪の所である。

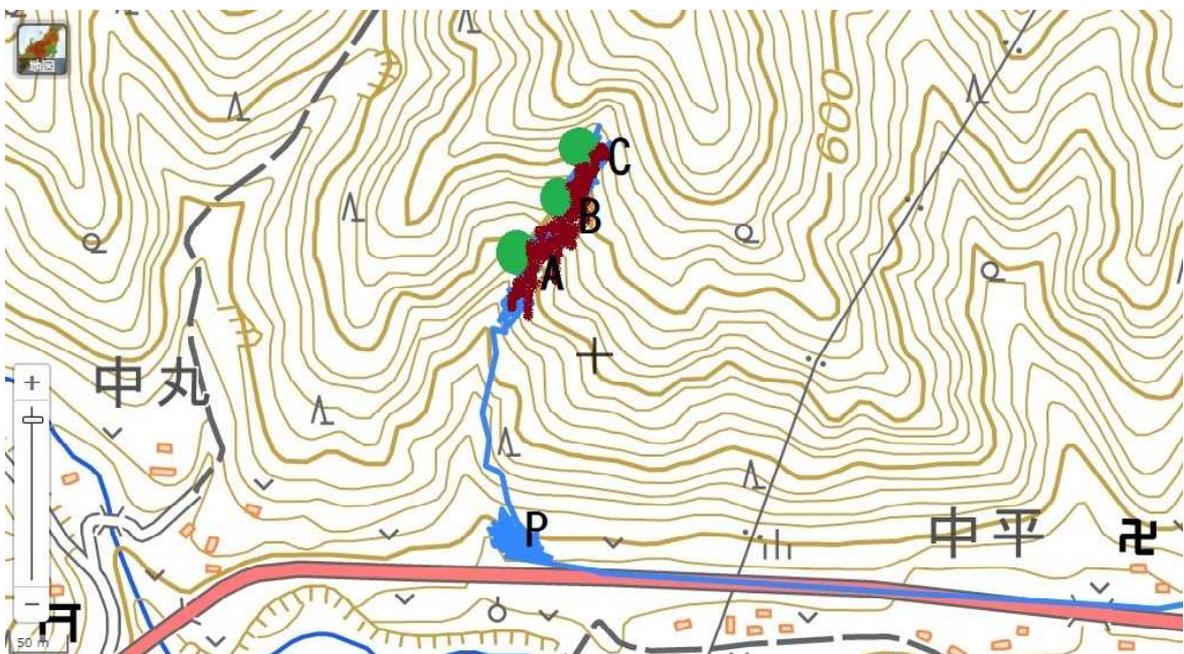


図2 図1の部分拡大図。沢の傍のP点が今回車を止めたところ。近くのドライブインの駐車場である。主人と交渉して、駐車させてもらった。10年前は、沢にかかっている「空沢橋」の所に車を駐車させたが、今回その場所を確認してみると、草ぼうぼうであった。が、1, 2台は止められるかも。駐車場の西端から「空沢」に沿って、消えかかっている林道を登っていく。今回3カ所に坑口跡を確認した。A, B, Cの黄緑丸である。前回はAとCの2カ所だけであった。茶色ベタはズリ。

鉱山跡写真



写真1 図1のP点の所にあったドライブイン。10年経ても現役であった。道路の先は下仁田方向である。今回車の台数が多かったため、店主に駐車許可をもらって車をこのドライブインの駐車場に置かせてもらった。駐車場の西端から沢に沿っての細道が延びている。



写真2 登って10分～15分で、沢の右岸に坑口跡に出会った。A点付近である。旧稿の写真4の坑口である。



写真3 その内部の様子。非常に綺麗である。



写真4 B点付近、沢の右岸に坑口跡があった。一帯は少しプラトーである。旧稿では確認できていなかった坑口である。赤輪の所。



写真5 それに近接しての坑口の様子。入口部分が土砂で埋もれかかっている。



写真6 それに近づいて、入口から内部の様子を見る。



写真7 C点付近にあった坑口跡。赤輪の所。旧稿の写真5の坑口跡。



写真8 それに近接しての一葉。



写真9 入口から内部を覗く。この坑道も綺麗に残っている

採集鉱物写真



写真10 ズリから探し出した現地で手に持った本鉱山の主産出物である輝安鉱石。銀灰色部分。直径3cm～4cmの赤丸内に銀色に輝く放射状の様子が輝安鉱の特徴的な結晶模様である。分かり易い。

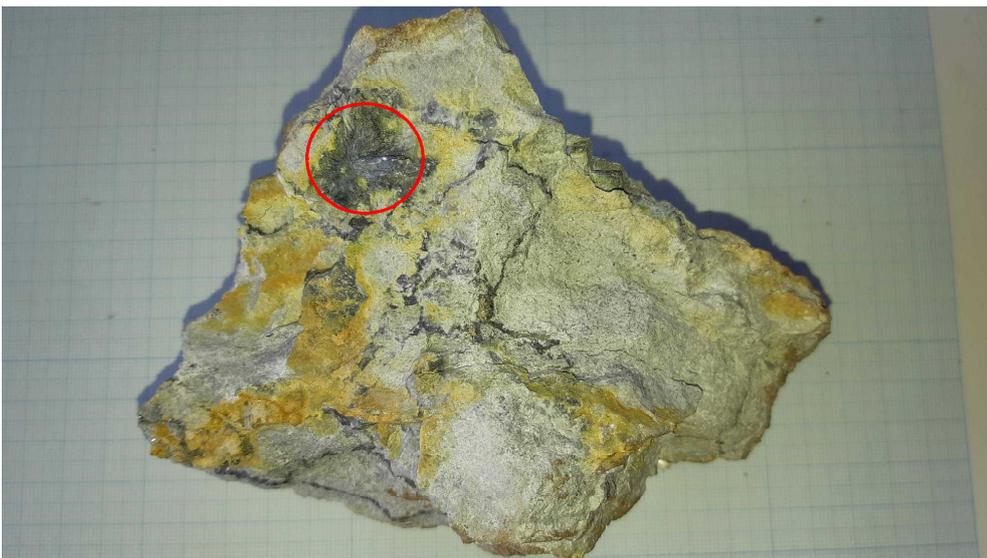


写真11 赤丸部分に直径4cmほどの輝安鉱の放射状結晶がある。



写真12 写真11の部分拡大写真。赤丸部分に輝安鈇の顕著な結晶模様。周りに輝安鈇らしい銀灰色の微小物が点在している。

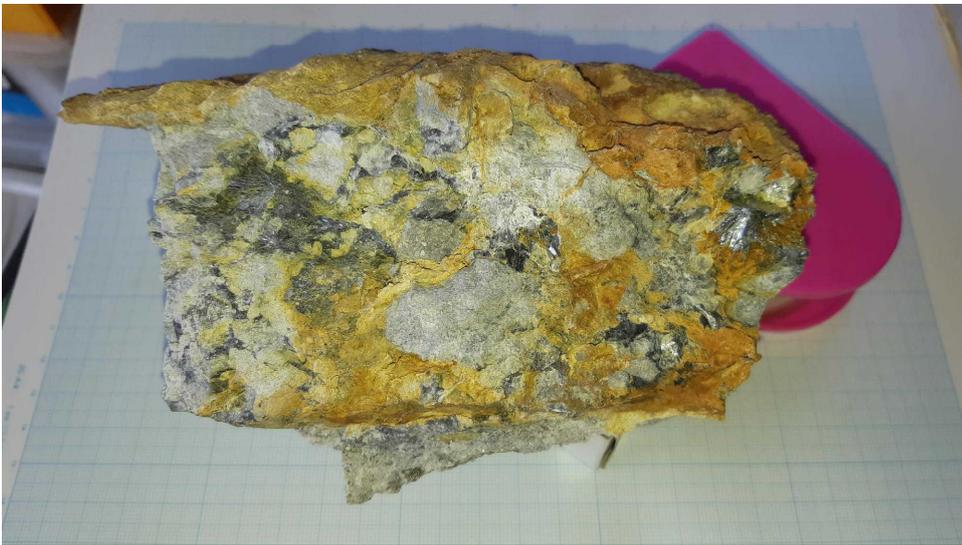


写真13 これも母岩についている輝安鈇の標本。銀灰色部分が輝安鈇。



写真14 写真13の部分拡大図。

(89) 群馬県下仁田町の中丸鉦山跡

この鉦山は参考文献(1)、(2)で紹介されていた。文献(1)の出版年は1995年、16年以上前である。文献(2)の出版年は2008年、3年前である。が本文中を見ると、現地の調査年は1977年、34年も前の探査記である。両方の現地図を見ると、(1)の地図の方が新しく、(2)の方が古い。又、文献(2)の地図では、現地が単純に記号で記されているだけであり、そこまでの案内が不十分である。従って、文献(1)を手引きに現地探査を行った。

現地への経路は次の通りである。上信越道を下仁田ICで下車する。254号線を西進していく。道路の左手に、道平ダムが近づいてきたら、進行右手に注意をする。右手にドライブインがあり、道路は前方で橋(空沢橋和)を渡る。行き過ぎると、左手に「荒船の湯」が見えてくる。鉦山跡へは、空沢橋の架かっている沢を遡ることになる。適当なところで車をおいて、歩こう。空沢橋の脇に小道があり、古い橋が沢に架かっている。この所で、沢の上流に向かって、右側に、林道が延びている。入口部分は少し急であるが。林道を進んでいくと、林道は消えている箇所もある。その場合は沢を遡ればよい。沢は少し急であるが、大雨以後以外ならば、十分に登っていきける。橋の所から30分～50分で鉦山跡にたどり着ける。

探査日 2011年 6月、

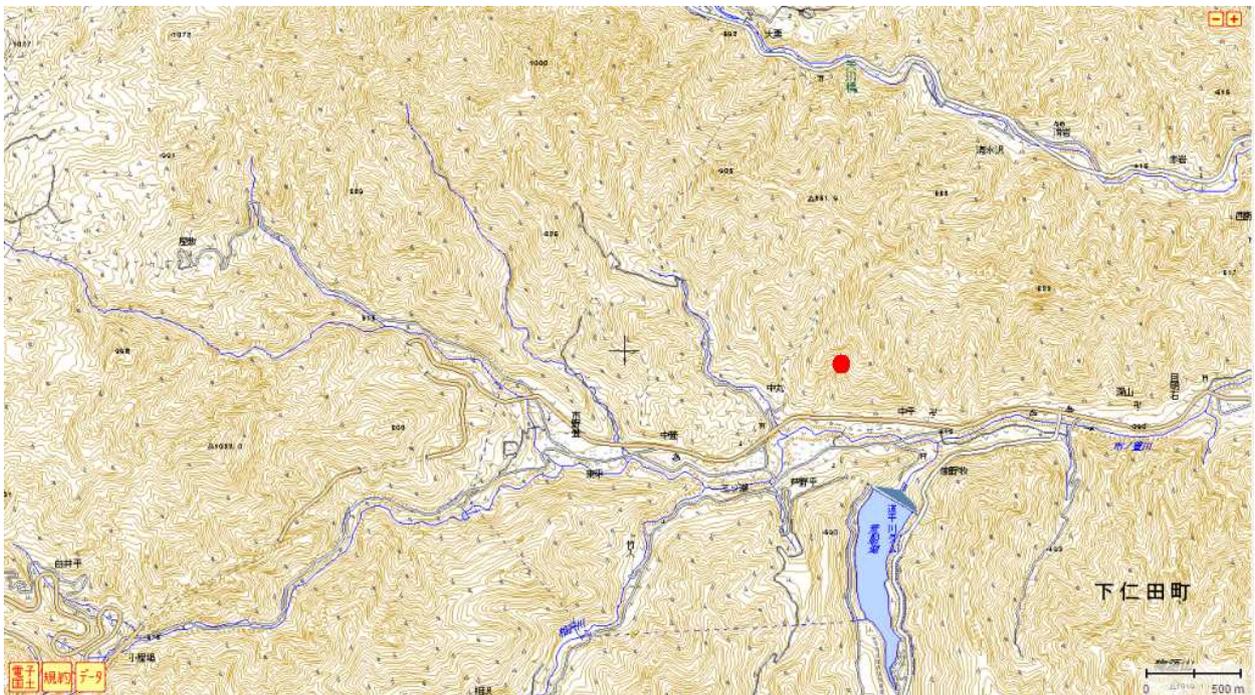


図1 国土地理院の地図サービスより複写掲載。254号線の北側にある赤丸当たりが中丸鉦山跡。鉦山への沢の入口付近にドライブインがある(2011年6月現在)。

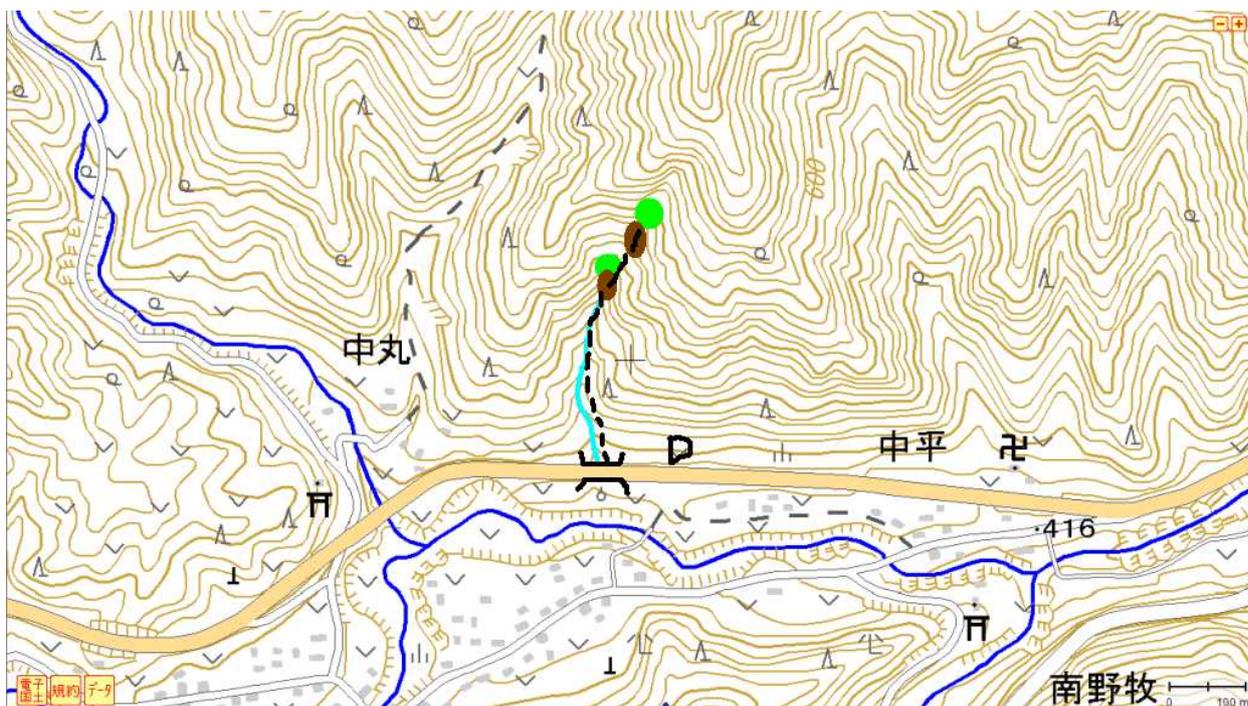


図2 図1の拡大図。探査結果を記入している。Dはドライブイン。その右側に沢が有り、橋が架かっている。水色線が沢、黒破線が大凡の道。途中で消えている。その箇所は沢を登ればよい。沢は少し急であるが、なだらかである。黄緑丸が坑口跡、茶色丸がズリ跡。

鉾山跡写真



写真1 254号線の中平地区にある「空沢橋」。標識が立っている。鉾山跡は空沢を遡ったところにある。沢へはこの橋の脇から降りていける。



写真2 空沢橋を降りて行くと、旧橋がある。この箇所、沢の上流に向かって、右側に林道の取り付け口がある。取り付け口は急坂であるが、直ぐになだらかに林道となる。



写真3 途中で林道が消えている。が、見失ったのかも知れない。沢を登って行けばよい。



写真4 途中に坑口跡があった。左下の黒い部分がそれ。ズリもあった。



写真5 更に登っていくと、プラトー部分があり、プラトーの左側に坑口跡があった。内部は非常に綺麗でしっかりしていた。プラトーの下はズリであるが、一見では、輝安鉱は見つけられなかった。じっくり探せば、見つかるのであろうか。

採集鉱物写真

何の標本も採集できていない。

参考文献

- (1)「鉱物産地をたずねて <増補改訂版>」、梅沢俊一、1995年、自費出版本か？
- (2)「鉱物観察ガイド」、松原聡、東海大出版会、2008年。